

# 春季宗教運動 - 大学キリスト教週間への招き -

中 條 道 雄

今年も4月に多くの新入生を迎えて新しい学年が始まって、早くも一月が経ちました。新入生の方々は新しい通学や下宿生活などにも少しずつ慣れてこられたでしょう。新たな学年に進級した人たちも勉学に、またクラブやサークル活動などにとそれぞれ新しい目標に向かって歩んでおられることでしょう。皆さんは大学での学びを通して多くの知識や能力の習得に励まれますが、自分の学んでいる大学の特色について考えたことがあるでしょうか？ 関西学院は言うまでもなく「私立」の学校（私学）です。私学の特長は創設者の明白な目的・理念・ビジョンに基づいている点にあります。関学の教育の基本は「キリスト教主義」に基づいており、このことが関学の大きな特長であることは広く知られています。実際、入学式や卒業式は礼拝形式で行われ、各学部にはチャペルがあってチャペルアワーが守られています。またキリスト教について学ぶ科目が必修となっています。しかし、このことが皆さんの日常のキャンパスでの生活のなかで、また将来にわたってどのような意味を持つのかについてはあまり考えたことがなかった人が多いのではないのでしょうか？このような点について改めて考える機会を毎年春と秋に行われる「宗教運動」は与えてくれると思います。

皆さんはいろいろな目的と期待を持って関学に入学されたと思います。大学で学ぶ期間にしっかりと知識や技能を得ることはもちろん重要ですが、それだけでなく良き友や師との交わりを通して自分を見つめ、確固たる価値観・人生観を育成することが肝要であると思います。現代は「情報化社会」であるとも言われ巷には膨大な情報が満ち溢れています。マスコミや特に近年におけるインターネットを通しての情報の爆発的な増加は「情報洪水」とまで表現されるほどです。このような中であって多種多様な情報の価値・信頼性を判断しそれらを整理し正しい意思決定を行っていくためには信念に基づく価値観・人生観が必須となります。「春季宗教運動」の機会に行われるチャペルなどのプログラムに参加されて関学の建学の精神についての理解を深め、それを通して「自分を見つめなおす」時をもたれてはいかがでしょうか？

（総合政策学部教授・宗教活動委員会委員長）